

令和 4 年 9 月 7 日

市民文教委員会

市民部創造都市・文化振興課

### ユネスコ創造都市ネットワーク報告書の提出について

ユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN)加盟都市は、4年ごとに報告書(メンバーシップモニタリングレポート、MMR)をユネスコ事務局に提出することが義務付けられている。

浜松市は、2014年音楽分野に加盟し、2018年に第1回目のMMRを提出した。本年、2022年は第2回目となるMMRを提出するため、以下のとおり作業を進める。

#### 1 提出期限など

- (1) 提出期限 2022年11月30日
- (2) 提出方法 英語またはフランス語で作成。電子メールにてデータ提出。

#### 2 報告内容

項目	2022年提出MMR案	2018年提出MMR
I 要旨	これまでの経緯 など	これまでの経緯 など
II 基本情報	都市名 など	都市名 など
III プログラムのグローバルマネジメントへの寄与	・UCCN年次総会への参加回数 ・国際会議の主催 など	・UCCN年次総会への参加回数 ・国際会議の主催 など
IV UCCNの目標を達成するために地域/都市レベルで実施した主な取り組み	・推進体制 ・浜松市創造都市推進事業補助金 ・市民音楽ホールの整備 ・市民音楽文化振興事業 など	・推進体制 ・みんなのはままつ創造プロジェクト ・市民音楽文化振興事業 ・芸術文化人材育成事業 など
V UCCNの目標を達成するために都市間協力/国際協力を通じて実施した主な取り組み	・はままつ響きの創造プロジェクト ・音楽文化発信・交流事業 ・音楽文化都市交流事業 など	・ユネスコ音楽都市はままつ推進事業 ・音楽文化発信・交流事業 ・音楽文化都市交流事業 など
VI 今後4年間の中長期アクションプラン	・クリエイティブワークショップ ・はままつクリエイティブウィークエンド など	・市民音楽ホールの整備 ・はままつ響きの創造プロジェクト など
VII 新型コロナ感染症への対応または回復のために実施した取り組み	・グローバルシーケンサー ・バーチャル浜松市楽器博物館	—

#### 3 MMRの評価

- ・提出の翌年初めにユネスコ事務局が分野別にMMRを加盟都市に送付。コーディネーター(音楽分野:マンハイム市)が、加盟都市の中から評価を行う都市を選出する。選出された都市がMMRの内容を評価する。

《参考》 2018 年提出 MMR 評価結果

評価項目	浜松市の評価
UCCN の活動への参加レベル (高・中・低の 3 段階)	高い
地域レベルの取り組みの質と量 (1～5 の 5 段階)	5 (非常に優秀)
都市間の協力により実施された取り組みの質と量 (1～5 の 5 段階)	5 (非常に優秀)
今後 4 年間のアクションプランの質 (1～5 の 5 段階)	5 (非常に優秀)
総合評価	非常に満足

4 MMR 提出までのスケジュール

9 月 7 日	市民文教委員会へ報告
9 月下旬～10 月上旬	浜松市創造都市アドバイザーからの意見聴取 佐々木 雅幸 氏 (大阪市立大学名誉教授) 松浦 晃一郎 氏 (元ユネスコ事務局長)
9 月下旬～10 月下旬	英訳作業 《国際課に依頼》
10 月 21 日	浜松市創造都市推進会議において審議
11 月上旬～11 月下旬	MMR デザイン委託
11 月下旬	ユネスコ事務局へ MMR 提出

◆ 添付資料 ◆

資料 1 : HAMAMATSU MONITORING REPORT 2018-2022 (案)

資料 2 : HAMAMATSU MONITORING REPORT 2014-2018

## HAMAMATSU MONITORING REPORT 2018-2022（案）

## 1. 要旨

浜松市は世界に誇る多くの起業家や産業技術、個性豊かな文化を生み出してきた創造都市です。地域の人々が多様な伝統文化を受け継ぎ、人材や技術の集積を活かしたまちづくりに取り組み、「ものづくりのまち」「音楽のまち」として発展してきました。また、世界的な楽器メーカー、ヤマハ、カワイ、ローランドの本社がある本市だからこそできるアプローチで、音楽の多様性と可能性を提示してきました。

楽器産業が集積する都市・浜松の文化芸術を活かしたまちづくり、音楽の持つ潜在的な力を引き出していく事業などを国内外に向けて発信していく中で、本市は2014年12月にユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）の音楽分野に加盟しました。

UCCNに加盟してからの最初の4年間は、本市が従来から力を入れてきた、市民が音楽の素晴らしさや楽しさに触れる機会の提供、音楽を基盤にした交流や人材育成に加え、UCCNに対する貢献として定めた国際的な活動における5つの基本方針に基づいて戦略的な事業を推進してきました。

今回報告する4年間は、5つの基本方針を総合的に推進するため、音の可能性の最大化を目指す新たな挑戦に取り組みました。音楽の創造都市として、“響き合い”をキーワードに地域レベル・国際レベルで多様なコラボレーションを強力に展開しました。具体的には、国内外のUCCN加盟都市との協働や異分野との連携を強化するとともに、創造的な人材を輩出する推進体制や支援内容を充実し、その効果を様々な領域に波及させることで、UCCNのミッションや国連の2030アジェンダの達成に貢献してきました。

- |                          |
|--------------------------|
| 1. 世界的音楽イベントを通じた国際交流の推進  |
| 2. 音楽を通じた異文化理解と文化的多様性の実現 |
| 3. 国際レベルの人材の育成と交流        |
| 4. サウンドデザインの聖地としての貢献     |
| 5. 新しい価値を創造するファンタジスタの輩出  |

「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を都市の将来像に掲げる本市では、地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、新しい価値や文化、産業が次々と創出され、暮らしの質を高めていく都市を目指し、今後も新たな挑戦に取り組みます。

## 2. 基本情報

- 2.1 都市名：浜松市
- 2.2 国名：日本
- 2.3 創造分野：音楽
- 2.4 加盟日：2014年12月1日
- 2.5 報告書提出日：2022年11月30日
- 2.6 報告書の作成責任者：浜松市 創造都市・文化振興課 創造都市推進グループ
- 2.7 前回報告書提出日：2018年11月30日
- 2.8 フォーカルポイント：浜松市 創造都市・文化振興課 創造都市推進担当課長  
澤田 吉延
- 2.9 コミュニケーション責任者：浜松市 創造都市・文化振興課 創造都市推進担当  
課長 澤田 吉延

## 3. プログラムのグローバルマネジメントへの貢献

- 3.1 過去4年間のUCCN年次総会への参加回数：2回
  - 2019年6月 ファブリアーノ市（イタリア）
  - 2022年7月 サントス市（ブラジル）オンライン参加
- 3.2 サブネットワーク・ミーティングへの参加：4回
  - 2018年11月 マンハイム市（ドイツ）
  - 2019年11月 大邱広域市（韓国）
  - 2020年11月 フルティジャール市（チリ）オンライン開催
  - 2021年11月 ベスプレーム市（ハンガリー）オンライン開催
- 3.3 UCCN年次総会の主催実績/主催予定：無
- 3.4 1つまたは複数のUCCN創造分野の代表者会議の主催：無
- 3.5 ネットワーク加盟都市が多数参加した創造都市の課題に関する国際会議の主催：  
無
- 3.6 UCCNの運営、コミュニケーションおよび可視性を確実にするためのユネスコ  
事務局への経済的支援：未実施
- 3.7 クラスターのコーディネーター/副コーディネーターを引き受けた期間：未実施
- 3.8 加盟申請書の評価件数、及びモニタリングレポートの評価件数：5件
  - 加盟申請書の評価 2019年2都市、2021年2都市
  - モニタリングレポートの評価 2020年1都市

#### 4. UCCN の目標を達成するために地域/都市レベルで実施した主な取り組み

浜松市は、以下に挙げる UCCN の目的を達成するために様々な取り組みを進めてきました。

- I. 持続可能な開発のための都市政策と行動において、文化と創造性を不可欠な要素とし、特に官民と市民団体が関与する参加型アプローチとパートナーシップを活用すること
- II. 創造的経済を強化し、特に文化財やサービスの創造、生産、流通、楽しさを促進すること
- III. 特に社会的に疎外されたグループや弱者に対し、文化的な生活へのアクセスを改善し、若者の参加と男女平等を促進すること
- IV. 創造性とイノベーションのハブを開発し、文化分野のクリエイターと専門家の機会を広げること
- V. 地域の開発戦略・計画に文化と創造性を統合すること
- VI. UCCN の認知度向上を強化し、持続可能な都市開発における文化と創造性の役割を強化し、この分野における研究、分析、普及を支援すること

#### 4.1 「創造都市・浜松」を推進するための組織づくり

##### 4.1.1 浜松市創造都市推進会議 (I、V)

2014年、企業、各種団体及び行政が相互に連携し、創造都市として更なる発展を遂げるため、「浜松市創造都市推進会議」を立ち上げ、市内関係団体の協力を得ながら事業を推進できる体制が整っています。

浜松市創造都市推進会議	公立大学法人静岡文化芸術大学／公益財団法人浜松市文化振興財団／浜松商工会議所／一般社団法人浜松創造都市協議会／公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューロー／浜松市
-------------	---

##### 4.1.2 はままつ響きの創造プロジェクト実行委員会 (I、V)

UCCN加盟後の3年間の成果を引き継ぎ、「響き」をキーワードに地域が一体となった取り組みを推進するため、市民活動や企業など民間活力を引き出す実行委員会を立ち上げました。実行委員会が主催した事業は5.1で後述します。

はままつ響きの創造プロジェクト実行委員会	公益財団法人浜松市文化振興財団／公立大学法人静岡文化芸術大学／公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューロー／浜松商工会議所／公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構／公益財団法人浜松国際交流協会／浜松市
プロジェクトチーム	公立大学法人静岡文化芸術大学／ヤマハ株式会社／株式会社河合楽器製作所／ローランド株式会社／やらまいかミュージックフェスティバル実行委員会／一般社団法人浜松創造都市協議会／音と人ミミ島

#### 4.1.3 浜松アーツ&クリエイション（IV、VI）

市民が主体となった創造的文化活動を支援するため、中間支援組織「浜松アーツ&クリエイション」を2018年4月に立ち上げました。専門人材による支援により、文化芸術がもたらす効果をまちづくり、観光振興、教育、福祉等に波及させ、文化活動の活性化及び経済的自立、創造産業の振興、地域課題解決に向けた活用を目指します。

#### 4.2 市民の創造性による地域課題の解決 浜松市創造都市推進事業補助金（I、VI）

市民活動団体やアーティスト、企業などが企画・実施する創造的な取り組みに対し、その経費を一部補助することで、それらの取り組みがより活発化し、継続的な活動を促進することを目的とした事業です。2019年からスタートし、これまで163件の提案を受け、65件を採択しました。

<取り組みの例>

- 気田川の魅力発信事業－「気田川からSDGsを考える」



実施団体：気田川漁業協同組合

上流の山間部荒廃による河川への影響を課題と捉え、広く市内外の方と共有する取り組みです。ドローン映像という視覚に訴える手法を用いた課題共有に挑戦しました。



- パフォーミングアーツのアーティストと多様な人の集まりでつくる本質的なコミュニケーションの学び



実施団体：社会福祉法人 ひかりの園

福祉分野の課題をアートで解決しようという取り組みです。福祉業界に従事する職員のスキル向上と介護を受けている人たちの尊厳や生きがい、社会との接点を取り戻し、双方が幸せになる可能性を模索する事業となりました。



- 「いただきます」浜松の発酵食品の歴史と健康効果発信事業



実施団体：浜松市のミニシアターを守る会

発酵食品に対する再評価及び地域資源（地元商店等）の活用に光を当てた取り組みです。昔からの食卓の風景が時代の移り変わりの中で失われつつあり、それを現在の生活に即した形で発展させていくことで創造的な気づきを与える機会となりました。



#### 4.3 市民音楽ホールの整備 サーラ音楽ホール（II）



2021年6月、「音楽の都 浜松」における多彩な市民活動の促進と、次世代の音楽文化を担う人材育成を基本理念とした市民音楽ホールを整備しました。



#### 4.4 市民音楽文化振興事業 公共空間を活用したコンサート（I、III）



市街地の屋外スペースを活用し、まちなかコンサートを年間30回開催しました。また、秋にはハママツ・ジャズ・ウィーク、やらまいかミュージックフェスティバルなど、市民や企業が主体となった音楽イベントを毎年実施しました。

コンサート観客数（人）

年度	2018	2019	2020	2021
まちなかコンサート	19,700	20,700	—	5,600
ハママツ・ジャズ・ウィーク	19,885	20,793	—	5,426
やらまいかミュージックフェスティバル	26,960	26,557	—	—

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2020年は全コンサートが中止、2021年は約半数のコンサートが中止



## 4.5 芸術文化人材育成事業

### 4.5.1 アクトシティ音楽院（Ⅲ、Ⅳ）



国内外で活躍できる音楽人材を育成するアカデミーコースでは浜松国際管楽器アカデミー&フェスティバルを、市民が音楽文化に楽しむコミュニティコースでは主催者育成セミナー、子ども音楽セミナー、音楽指導者派遣事業などを行いました。

年度	2018	2019	2020	2021
アカデミーコース受講者数 (人)	112	111	—	—
コミュニティコース受講者数 (人)	48,206	48,530	18,628	19,743
音楽指導者派遣事業派遣回数 (回)	474	442	200	205

※2020年、2021年のアカデミーコースは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止

※2020年、2021年のコミュニティコース、音楽指導者派遣事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部開催中止



### 4.5.2 ジュニアオーケストラ浜松・ジュニアクワイア浜松（Ⅲ）



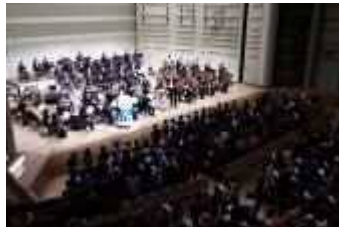
次代の音楽文化の担い手を育てるため、小学3年生～高校3年生で構成するオーケストラ、小学2年生～高校3年生で構成する合唱団の育成事業を推進しました。



#### 4.5.3 こども音楽鑑賞教室（Ⅲ）



子どもの頃から質の高い本物の音楽に触れる機会を創出するため、市内小学校 5 年生全員（約 7,500 人）を対象とした、プロオーケストラの演奏を体感する事業を実施しました。



### 4.6 創造産業の育成

#### 4.6.1 NAMM Show への共同出展（Ⅱ）



市内の楽器関連中小企業の販路開拓を支援し、国外でのプレゼンスを高めるため、アメリカで開催される世界最大級の楽器国際見本市「NAMM Show」に浜松市ブースを出展しました。

出展実績 NAMM Show：2019年5社、2020年3社



#### 4.7 音楽を通じた異文化理解と多文化共生に向けた取り組み 浜松市楽器博物館（Ⅱ、Ⅲ）



浜松市楽器博物館は、日本で初めての公立楽器博物館として 1995 年に開館し、「世界の楽器と音楽を平等に扱う」というコンセプトのもと、世界中から楽器と楽器に関する資料を収集し、音楽を通じて異文化への理解を深める事業を推進しています。常時 1,500 点余の楽器を展示しているだけでなく、小学校での特別授業など教育普及活動にも力を入れています。レクチャーコンサートや特別展では、歴史的にも価値のあるイベントを開催し、首都圏の音楽界、博物館界からも高評を得ました。子ども向けのワークショップから大人向けの音楽文化講座まで、幅広いニーズに応えつつ、文化の向上に寄与できる活動を行っています。

2021 年にはロンドンで開催された国際博物館会議に参加し、楽器博物館の取り組みを紹介したことで世界の博物館との情報共有や館同士の繋がりを強化しました。また、視覚に障がいのある方を対象とした「楽器を触る」観覧や触覚ガイドを実施しました。

新型コロナウイルス感染症により来館が難しい場合でも、バーチャル浜松市楽器博物館（7.2 で後述）や自身のスマートフォンが館内ガイドになるアプリの導入、楽器に関する動画配信を行いコロナ禍でも楽しめるサービスを提供しました。

年度	2018	2019	2020	2021
入館者数（人）	87,902	82,617	32,523	40,571
小学校での授業参加者数（人） 〔実施回数（回）〕	3,029 〔5〕	2,702 〔10〕	2,480 〔5〕	1,803 〔4〕

※2020 年、2021 年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館や行動制限の影響により入館者数減少



## 5.UCCN の目標を達成するために都市間協力/国際協力を通じて実施した主な取り組み

### 5.1 はままつ響きの創造プロジェクト

#### 5.1.1 くりだん 2018～Creative Dance Connection～



人と人との「響き合い」をテーマに市民協働による共生社会の実現を目指すダンスイベントを開催し、市民、プロダンサー、車椅子ダンサーがダンスを通してコミュニケーションを図りました。

聴覚に障がいのある方と障がいのない方が一緒にダンス活動をする市民団体や、義足のダンサー、車椅子のダンサー、東京などの大都市で活躍するプロダンサーなど幅広い方々、未就学児から高校生まで若い世代が参加しました。

オーディション：開催日 2018年8月26日 来場者 113名

プレイベント：開催日 2018年9月14日 来場者 260名

くりだん2018：開催日 2018年9月15日 来場者 1,220名



#### 5.1.2 日露交歓コンサート 2019



ロシアン・ピアノのメッカ「チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院」や「国立グネーシン音楽アカデミー」の教授、准教授及び卒業生を始め、世界中で活躍する一流の国際的音楽家を招き、障がいのある児童・生徒が通う特別支援学校でコンサートを開催しました。クラシック音楽の普及と国際文化交流の展開、社会福祉の推進を通じて参加者に音楽の楽しさを伝えました。

開催日 2019年9月18日～20日

入場者数 1,038人



### 5.1.3 サウンドデザインファクトリーin 浜松 2019



世界的な楽器メーカーの本社に加え、中小様々な楽器製造関連会社が数多く集積する浜松市は「ものづくりのまち」「音楽の都」として発展してきました。その中で、更に創造的な活動を活性化し、人々の暮らしの質や豊かさを高めていくため、サウンドデザインをキーワードとして「音が生まれるファクトリー」で行われる体験型製品の展示、ワークショップやパフォーマンス、トークセッションやミーティングを通して音に関する創造性を探りました。

開催日 2019年12月7～8日

出展者数 18団体（アーティスト、企業を含む）

来場者数 1,209人



### 5.1.4 サウンドデザインフェスティバル in 浜松 2021



浜松市では、音の多様性と創造性の新たな可能性を求めて、サウンドデザインをキーワードとして、2016年の「サウンドデザインシンポジウム」、「サウンドデザインフェスティバル in 浜松 2017」、「サウンドデザインファクトリーin2019」を開催してきました。「サウンドデザインフェスティバル in 浜松 2021」はこれまでのサウンドデザインを推進してきた取り組みの集大成として開催し、誰もが音作りを楽しめる場の創出、リアルとリモートの共存、距離や空間を越えた創造的な音との出会い、創造的人材の発掘・育成・交流等、様々な角度から音の可能性を感

じられるコンテンツにするとともに、SDGsの推進にも貢献しました。  
また、コロナ禍に対応するため、ステージイベントやワークショップのオンライン配信を行い、市内外、海外からのリモート参加を可能としました。

開催日 2021年12月11～12日

テーマ 音と創るコミュニケーションのカタチ

出展者数 展示17、ステージ7、ワークショップ14（アーティスト、企業などを  
含む）

来場者数 5,895人（サテライト会場含む）

実績値 オンライン参加34,797回（YouTube動画再生数2022年1月31日時点）



## 5.2 音楽文化発信・交流事業

### 5.2.1 浜松国際ピアノコンクール（2018、2021）



若いピアニストに世界へ羽ばたくきっかけを提供することを目的に、1991年から3年ごとに開催しています。第1位入賞者には国内外で20回を超えるコンサートの機会が与えられます。これまでの入賞者には、チョ・ソンジン（2009年優勝、2015年ショパン国際ピアノコンクール優勝）など著名な演奏家や指導者となった方がいます。市民ボランティアの活動、ピアニストのホームステイやコンクールを終えたピアニストによるスクールコンサート、ホームコンサートなど、市民レベルでの様々な取り組みが実施されているのも当コンクールの特徴です。

## 第 10 回実績

開催日	2018 年 11 月 8 日～11 月 25 日
応募者数	382 人 (37 か国 1 地域)
入場者数	24,811 人
スクールコンサート実施回数 (観客数)	10 (5,560 人)
ホームコンサート実施回数 (観客数)	13 (323 人)



第 11 回は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、浜松市独自の公演を企画し代替事業「浜松ピアノ・フェスティバル 2021」を開催しました。国内外で活躍する浜松ゆかりのピアニスト達が再び浜松に集結し、2021 年 11 月に 7 回のコンサートを通して熱演を繰り広げ、延べ 4,866 人を集客しました。

## 5.3 音楽文化都市交流事業

### 5.3.1 札幌市との音楽文化都市交流



浜松市と札幌市は、2009 年 5 月に、互いが持つ都市の魅力である「音楽文化」をより一層振興し、日本の音楽文化の振興に寄与することを目的として「音楽文化都市交流宣言」を締結。以降、青少年の音楽団体による音楽文化交流を毎年実施してきました。



## 5.4 その他

### 5.4.1 創造都市ネットワーク日本（CCNJ）への参加

2013年1月、創造都市の取り組みを推進する日本国内の地方自治体等の連携と交流を促進するために、創造都市ネットワーク日本（CCNJ）が設立されました。浜松市は設立当初から参加しています。2018年、2019年は代表幹事都市を務め、加盟団体数約160で構成される同ネットワークのコーディネートを行いました。

### 5.4.2 他分野都市（国内UCCN加盟都市）との連携

UCCNに加盟する国内都市と連携し、音楽分野以外の分野の発信（分野別会議）を行うことで、多様な分野の創造的な活動を市民が触れる機会を創出しました。

開催日	分野	交流都市
2021年3月	工芸分野	金沢市・丹波篠山市
2021年3月	映画分野	山形市
2022年1月	デザイン分野	神戸市

また、2019年4月、神戸市で開催された「神戸市×浜松市 ユネスコ創造都市ネットワーク連携企画」に協力しました。



### 5.4.3 音楽の祭日（Fete de la Musique）での動画発信（2020年、2021年）

音楽の祭日（6月21日）に、UCCN音楽都市が企画した、様々なアーティストのパフォーマンスをオンラインストリーミング発信するプロジェクトに参加しました。浜松市は地元ミュージシャンによる演奏や伝統的なまつりで演奏される音楽の動画を発信しました。

### 5.4.4 UCCN音楽都市のイベント参加

UCCN音楽都市の開催するイベントに浜松市の取り組みを紹介する動画を提供して協力しました。

2022年3月ドイツ・ハノーバー市「デジタルサウンド、協力とネットワーク」

2022年5月トルコ・クルシェヒル市「国際音楽会議」



## 6. 今後4年間の中長期アクションプラン

新しい価値創造に向けて ～ヒト・モノ・コト 多様なコラボレーションから生まれる相乗効果～

2018年からの4年間は、音の多様性と創造性の新たな可能性を求めて、サウンドデザインをキーワードに事業を推進してきました。

1. 世界的音楽イベントを通じた国際交流の推進
2. 音楽を通じた異文化理解と文化的多様性の実現
3. 国際レベルの人材の育成と交流
4. サウンドデザインの聖地としての貢献
5. 新しい価値を創造するファンタジスタの輩出

今後4年間は、5つの基本方針を総合的に推進するため、創造的な活動を実践する人、新しい価値を創造する人の発掘・育成を強力に進めていきます。また、世界的な音楽イベントや演奏家育成を継続して行うほか、国内外のUCCN加盟都市との協働や異分野との連携を強化するとともに、創造的な人材を輩出する推進体制や支援内容を充実し、その効果を様々な領域に波及させることで、UCCNのミッションや国連の2030アジェンダの達成に貢献していきます。

### 6.1 ネットワークの目標を達成するための地域レベルでの取り組み

#### 6.1.1 市民の創造的活動の支援体制の強化／浜松アーツ&クリエイション

文化芸術の力を都市の発展に活かすため、浜松アーツ&クリエイションを中心に、市民の創造性を総合的・戦略的に支援・推進するための仕組みを構築し、市民が主体となった創造的な活動を一層活発化させます。

#### 6.1.2 はままつクリエイティブシティブースター事業～クリエイティブワークショップ～

様々なクリエイティブ人材（芸術家、職人、技術者等）、様々な主体（企業、NPO、大学等）を講師に迎え、参加者となる市民に「気付く・考える・創る・発表（共有）する」機会を提供するクリエイティブワークショップを開催します。このワークショップを通じて形成される人材のネットワークにより、新たな創造的活動を生み出すことを目指します。

### 6.2 ネットワークの目標を達成するための国際レベルでの取り組み

#### 6.2.1 はままつクリエイティブシティブースター事業～はままつクリエイティブウィークエンド～

2025年、複合型クリエイティブイベント「Hamamatsu Creative Weekend」の開催を予定しています。イベントでは、UCCN加盟都市など国内外から先鋭的な創造事

業に取り組むクリエイティブ人材を招き、実践を伴うワークショップを通じて、新たなクリエイティブ人材の発掘を行います。また、市内で創造的な活動を実施する個人・団体の活動を世界に向けて発信するとともに、外部クリエイティブ人材とのミートアップ、共同プロジェクト等を行います。本イベントの開催に向けて、クリエイティブワークショップの拡大（開催本数、参加者数）と充実（内容とフォローアップ）を図ります。

### 6.3 提示されたアクションプランの実行にかかる推定年間予算

予算議決前のため、具体的な額を示すことはできませんが、概ね2022年度と同等の予算規模を見込んでいます。

2022年度 創造都市・文化振興費 約4,006,000,000円

### 6.4 コミュニケーションと認識向上のための計画

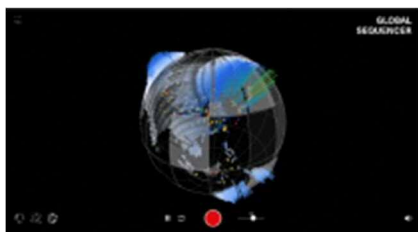
- ・ 創造都市・浜松ウェブサイト、SNS、浜松アーツ&クリエイションや浜松市文化振興財団のウェブサイト等を通じ、情報発信を行います。
- ・ 創造都市関連事業やマスメディアとの共同事業等においてUCCNの意義等を発信し、地域におけるステイクホルダーや市民の認識向上に努めます。
- ・ UCCNのウェブサイトに積極的にニュースを掲載します。
- ・ CCNJの幹事都市（2022-2024）として、創造都市に関心を持つ地方自治体等に対して、UCCNの意義等を発信し、加盟申請への助言や協力などの支援を行うことで、ネットワークの発展に貢献します。
- ・ 今後の都市間連携の更なる強化に向け、世界中のUCCN加盟都市に浜松市をより知ってもらうため、創造都市・浜松ウェブサイト内のブログを活用した英語での情報発信を隔月で行います。

## 7 新型コロナ感染症への対応または回復のために実施した取り組みについて

### 7.1 コロナ禍でも音を通して世界とのつながりを感じられる「Global Sequencer」

ウェブコンテンツ「グローバルシーケンサー」は、音を通して世界をつなぐことを目指しサウンドデザイナーのスズキユウリ氏の協力のもと制作しました。スマートフォンやパソコンなどのインターネットを使える環境があれば、誰でも簡単に使うことができます。世界中から集まった音がランダムに組み合わせられて新しい音となることで、コロナ禍でも世界とのつながりを感じられる作品です。

世界 64 の国・地域から 1,408 の音が投稿されています。(2022 年 1 月 31 日現在)



<https://globalsequencer.com/>

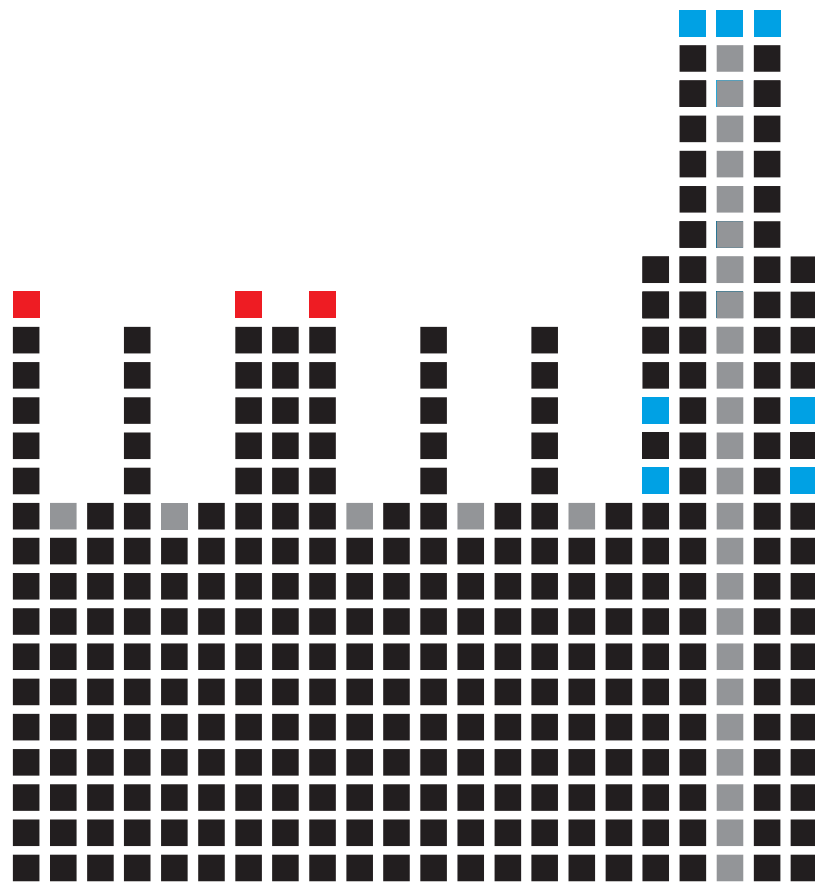
### 7.2 バーチャル浜松市楽器博物館

浜松市楽器博物館では 2021 年 5 月からパソコンやスマートフォンで館内を見学できる「バーチャル浜松市楽器博物館」を公開しました。オンライン上のコンテンツのため、コロナ禍で実際に来館することが難しい方でもバーチャル空間で展示を楽しむことができます。

2021 年度のページビュー数は 17,256 回です。(2021 年 5 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)



<https://qr.quel.jp/url.php>



# HAMAMATSU

## MONITORING REPORT

### 2 0 1 4 - 2 0 1 8



## 1 要旨

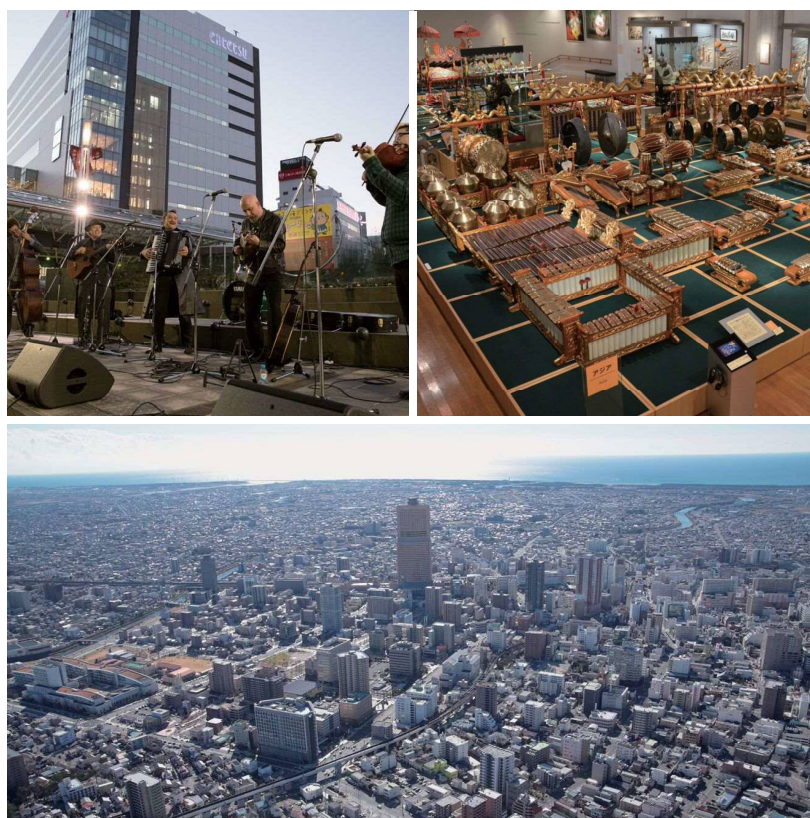
浜松市は世界に誇る多くの起業家や産業技術、個性豊かな文化を創出してきた創造都市です。地域の人々が多様な伝統文化を受け継ぎ、人材や技術の集積を活かしたまちづくりに取り組み、「ものづくりのまち」「音楽のまち」として発展してきました。また、世界的な楽器メーカー、ヤマハ・カワイ・ローランドの本社がある浜松市だからこそできるアプローチで、音楽の多様性と可能性を提示してきました。

楽器産業が集積する都市・浜松の文化芸術を活かしたまちづくり、音楽の持つ潜在的な力を引き出していく事業などを国内外に向けて発信していく中で、浜松市は2014年12月にユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）の音楽分野に加盟しました。

UCCNに加盟してからの4年間は、本市が従来から力を入れてきた、市民に音楽の素晴らしさや楽しさに触れる機会の提供や、音楽を基盤とした交流や人材育成に加え、UCCNに対する貢献として定めた国際的な活動における5つの基本方針に基づいて戦略的な事業を推進してきました。

1. 世界的音楽イベントを通じた国際交流の推進
2. 音楽を通じた異文化理解と文化的多様性の実現
3. 国際レベルの人材の育成と交流
4. サウンドデザインの聖地としての貢献
5. 新しい価値を創造するファンタジスタの輩出

「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を都市の将来像に掲げる浜松市では、地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、新しい価値や文化、産業が次々と創出され、暮らしの質を高めていく都市を目指し、今後も新たな挑戦に取り組めます。



## 2 基本情報

- 2.1 都市名: 浜松市
- 2.2 国名: 日本
- 2.3 創造分野: 音楽
- 2.4 加盟日: 2014年12月1日
- 2.5 報告書提出日: 2018年11月30日
- 2.6 報告書の作成責任者: 浜松市 創造都市・文化振興課 創造都市事業推進グループ
- 2.7 前回報告書提出日: -
- 2.8 連絡担当者: 浜松市 創造都市・文化振興課 創造都市推進担当課長 鈴木 三男

### 3 ネットワークのグローバルマネジメントへの貢献

#### 3.1 過去4年間のUCCN年次総会への参加回数：4回

(通算7回、2011年11月 ソウル (韓国)、2013年9月 ポローニャ (イタリア)、2014年9月 成都 (中国) はオブザーバーとして参加)

2015年5月 金沢 (日本)  
2016年9月 エステルスンド (スウェーデン)  
2017年6月 アンギャンレバン (フランス)  
2018年6月 クラクフ&カトビーツェ (ポーランド)

#### 3.2 サブネットワーク・ミーティングへの参加

2015年1月 グラスゴー (英国)  
2015年12月 浜松 (日本)  
2017年3月 アデレード (オーストラリア)  
2017年10月 カトビーツェ (ポーランド)  
2018年2月 キングストン (ジャマイカ)  
2018年11月 マンハイム (ドイツ)

#### 3.3 UCCN年次総会の主催実績：未開催

#### 3.4 1つまたは複数のUCCN創造分野の代表者会議の主催：2015年12月 サブネットワーク会議



参加都市 (加盟申請中だった都市を含む) :  
ポローニャ、セビリア、グラスゴー、アントワープ、ブラザヴィル、  
ハノーバー、マンハイム、アデレード、イダーニャ・ア・ノバ、  
カトビーツェ、キングストン、サルヴァドール、トンヨン、  
ルッカ、浜松

#### 3.5 ネットワーク加盟都市が多数参加した創造都市の課題に関する国際会議の主催

2015年12月 世界創造都市フォーラムin浜松2015

参加都市 (加盟申請中だった都市を含む) :

ポローニャ、セビリア、グラスゴー、アントワープ、ブラザヴィル、ハノーバー、マンハイム、アデレード、イダーニャ・ア・ノバ、カトビーツェ、キングストン、サルヴァドール、トンヨン、ルッカ、札幌、名古屋、浜松

2016年12月 サウンドデザインシンポジウムin浜松2016

参加都市：ハノーバー

#### 3.6 UCCNの運営、コミュニケーションおよび可視性を確実にするためのユネスコ事務局への経済的支援：

未実施

#### 3.7 運営グループの経験とその期間：未実施

#### 3.8 申請書の評価への参加 (年間評価した申請書の数)：2015年 1都市、2017年 3都市



#### 4 UCCNの目的を達成するために 地域レベルで実施された主な取り組み

浜松市は、以下に挙げるUCCNの目的を達成するために様々な取り組みを進めてきました。

- I. 公共セクターと民間セクターと市民社会とのパートナーシップを通じて、創造性を都市発展の必須要素としていること
- II. 文化財と文化サービスの創造、生産、流通、楽しさを強化していること、創造経済を発展させていること
- III. 文化的生活へのアクセスや参加、文化財やサービスの享受の促進、特に女性や若者を含む、疎外化された、あるいは脆弱なグループや個人の享受を改善すること
- IV. 創造性とイノベーションのハブを開発し、文化分野のクリエイターと専門家の機会を広げること
- V. 地域の開発戦略・計画に文化と創造性を統合すること
- VI. UCCNにおける意識改革や、持続可能な都市発展における文化と創造性の役割を強化し、この分野における研究と分析を支援すること



#### 4.1 「創造都市・浜松」を推進するための組織づくり

##### 4.1.1 浜松市創造都市推進会議（I、V）

2014年、企業、各種団体及び行政が相互に連携して創造都市としての発展を推進するための新組織「浜松市創造都市推進会議」を立ち上げるとともに、音楽専門部会を設置し、音楽文化の振興、音楽産業の振興、音楽人材の育成などについて議論しました。

<b>浜松市創造都市推進会議</b>	静岡文化芸術大学／公益財団法人浜松市文化振興財団／ 浜松商工会議所／一般社団法人浜松創造都市協議会／浜松市／
<b>音楽専門部会</b>	静岡文化芸術大学／ヤマハ株式会社／株式会社河合楽器製作所／ ローランド株式会社／公益財団法人浜松交響楽団／ 浜松フィルハーモニー管弦楽団／浜松市吹奏楽連盟／浜松市合唱連盟／ 浜松市民バンド協議会／浜松学芸高校／公益財団法人浜松市文化振興財団

##### 4.1.2 ユネスコ音楽都市はままつ推進事業実行委員会（I）

UCCN加盟を機に2015年から2017年の3年間でリーディング事業を実施するため、楽器メーカー、学術機関、経済・文化・観光・国際分野の団体と行政により実行委員会を立ち上げました。実行委員会が主催した事業は5.1で後述します。

<b>ユネスコ音楽都市はままつ推進事業実行委員会</b>	公益財団法人浜松市文化振興財団／静岡文化芸術大学／ 光産業創成大学院大学／ヤマハ株式会社／株式会社河合楽器製作所／ ローランド株式会社／公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構／ 浜松商工会議所／日本貿易振興機構（ジェトロ）浜松貿易情報センター／ 公益財団法人浜松観光コンベンションビューロー／ 公益財団法人浜松市国際交流協会／浜松市
------------------------------	---

##### 4.1.3 浜松アーツ&クリエイション（IV、VI）

市民が主体となった創造的文化活動の活性化を専門的に支援するため、中間支援組織「浜松アーツ&クリエイション」を2018年4月に立ち上げました。専門人材による支援により、文化芸術がもたらす効果をまちづくり、観光振興、教育、福祉等に波及させ、文化活動の経済的自立、創造産業の振興及び地域課題解決に向けた活用を目指します。

## 4.2 市民の創造性による地域課題の解決 みんなのはままつ創造プロジェクト（I、VI）

市民の創造性を引き出し、創造都市の実現に向けて地域が一体となって取り組むため、市民活動団体や企業等が企画・実施する創造的な取り組みを助成・支援する事業です。2012年からスタートし、これまで440件の提案を受け、222件を採択しました。市民の手によって、音楽分野に限らず、市民の暮らしの質や豊かさを高める多様な取り組みが行われました。

### <取り組みの例>



#### ■ たけし文化センターARSNOVAプロジェクト

実施団体：認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ  
障がい者を個性として捉え、障がい者のアート制作やパフォーマンス等を通じ、障がい者の自立と社会の関わり方に対する新しい提案を示しました。



#### ■ とって食べるプロジェクト

実施団体：昆虫食倶楽部  
セミ、バッタ、ハゼなど商店では手に入らない「食材」を実際に捕獲して食べる活動を通じ、食に対する感謝や、浜松の豊かな自然環境を守ろうとする機運が高まりました。



#### ■ 森林資源のプロモーション・新プロダクト創造プロジェクト

実施団体：新天竜プロジェクト  
林業従事者の減少などの課題を抱えている浜松市の天竜地域の森林の価値と課題を広く伝え、新しいプロダクトを創造するため、森林ガイドツアーや展示会を実施しました。

## 4.3 市民音楽文化振興事業 公共空間を活用したコンサート（I、Ⅲ）

市街地の屋外スペースを活用し、まちなかコンサートを年間30回開催しました。また、秋にはハママツ・ジャズ・ウィーク、やらまいかミュージックフェスティバルなど、市民や企業が主体となった音楽イベントを毎年実施しました。

コンサート観客数（人）

年度	2014	2015	2016	2017
まちなかコンサート	27,400	22,225	24,250	18,900
ハママツ・ジャズ・ウィーク	13,140	14,050	16,000	9,252
やらまいかミュージックフェスティバル	30,870	31,252	31,854	29,080

※2017年は、台風の影響により複数のコンサートが中止となりました。

#### 4.4 芸術文化人材育成事業

##### 4.4.1 アクトシティ音楽院(Ⅲ、Ⅳ)

国内外で活躍できる音楽人材を育成するアカデミーコースでは浜松国際管楽器アカデミー&フェスティバルを、市民が音楽文化に楽しむコミュニティコースでは主催者育成セミナー、子ども音楽セミナー、音楽指導者派遣事業などを行いました。

年度	2014	2015	2016	2017
アカデミーコース受講者数(人)	122	120	112	111
コミュニティコース受講者数(人)	1,717	2,872	2,773	2,440
音楽指導者派遣事業派遣回数(回)	251	251	372	450

##### 4.4.2 ジュニアオーケストラ浜松・ジュニアクワイア浜松(Ⅲ)

次代の音楽文化の担い手を育てるため、小学3年生～高校3年生からなるオーケストラ、合唱団の育成事業を推進しました。

##### 4.4.3 こども音楽鑑賞教室(Ⅲ)

子どもの頃から質の高い本物の音楽に触れる機会を創出するため、市内小学校5年生全員(約7,500人)を対象とした、プロオーケストラの演奏を体験する事業を毎年実施しました。

#### 4.5 創造産業の育成



##### 4.5.1 楽器メーカーズフェスティバル(Ⅱ、Ⅳ)

楽器のまち・浜松に集積する楽器づくりの職人、エンジニア、デザイナーなどの技術力・創造力に光を当てたフェスティバルを開催しました。楽器の展示、楽器作りワークショップ、ピアノ解体ショー、コンサート等を行いました。

開催日 2015年12月5日～6日

##### 4.5.2 楽器フェア、NAMM Showへの共同出展(Ⅱ)

浜松市の楽器関連の中小企業の販路開拓を支援し、国内外でのプレゼンスを高めるため、日本最大規模の楽器の見本市「楽器フェア」、アメリカの「NAMM Show」に出展しました。

出展実績 楽器フェア：2016年4社、2018年4社(2年ごとに開催)

NAMM Show：2016年5社・市長によるスピーチ、2017年7社、2018年5社

#### 4.6 音楽を通じた異文化理解と多文化共生に向けた取り組み 浜松市楽器博物館（Ⅱ、Ⅲ）



浜松市楽器博物館は、日本で初めての公立楽器博物館として1995年に開館し、「世界の楽器と音楽を平等に扱う」というコンセプトのもと、世界中から楽器と楽器に関する資料を収集し、音楽を通じて異文化への理解を深める事業を推進しています。常時1,500点余の楽器を展示しているだけでなく、小学校での特別授業など教育普及活動にも力を入れています。また、年間約30回のレクチャーコンサートやワークショップ、所蔵楽器によるCDやDVDの制作を行い、これらの取り組みが評価され、2014年、民族音楽学の権威ある賞のひとつである「小泉文夫音楽賞」を受賞しました。UCCN加盟後、世界への情報発信機能を強化するため楽器展示機能を大幅に充実させました。2016年4月にリニューアルオープンし、2018年6月には累計入館者数が200万人を突破しました。

年度	2014	2015	2016	2017
入館者数(人)	86,605	96,236	88,139	87,370
小学校での授業参加者数(人) 〔実施回数(回)〕	1,103 〔3〕	2,144 〔8〕	2,583 〔7〕	2,363 〔5〕



## 5 UCCNの目標を達成するために都市間の協力を通じて実施された主な取り組み

### 5.1 ユネスコ音楽都市はままつ推進事業

#### 5.1.1 世界創造都市フォーラムin浜松2015 (I、V、VI)

UCCN音楽分野加盟都市と連携し世界創造都市フォーラムを開催しました。UCCN音楽分野の加盟都市7都市による実践発表を行うとともに、Fête de la Musiqueの創設者であるジャック・ラング氏(元フランス文化大臣)、創造都市ネットワークの創設者である松浦晃一郎氏(ユネスコ第8代事務局長)などをゲストに迎え、議論を重ねました。UCCN音楽分野の加盟都市の賛同を得て、「音楽の多様性と創造性を探求する“浜松アジェンダ”」を参加者全員により採択しました。



開催日： 2015年12月4日

テーマ： 音楽を通じた文化的多様性の実現に向けて、  
音楽の新しい創造性を求めて

参加者数： 203人

参加都市： 3.5を参照

### 5.1.2 世界音楽の祭典in浜松2016 (I、Ⅲ、Ⅵ)



“浜松アジェンダ”の「音楽を通じた文化的多様性」を具現化するため、UCCN音楽分野の加盟都市と協働して開催した音楽祭です。メインコンサートの他、中心市街地の公共空間やショッピングモール、ジャズバーなどでのミニコンサートも行い、市民が世界の多様な音楽を体感する四日間となりました。



開催日： 2016年11月3日～6日  
テーマ： 世界と響き合う新しい音楽文化の創造  
音楽監督： 三宅純  
入場者数： 20,054人  
出演者数： 36グループ(団体・個人)、  
19か国より、約600人(うち、海外から119人)  
参加都市： UCCN音楽分野加盟都市(セベリア、ポローニャ、гент、  
ブラザヴィル、ハノーバー、マンハイム、アデレード、イ  
ダーニャ・ア・ノバ、カトピーツェ、キングストン、リバプール、  
サルヴァドール、トンヨン) ほか、7ヶ国

### 5.1.3 サウンドデザインシンポジウムin浜松2016 (I、Ⅴ、Ⅵ)

“浜松アジェンダ”の「音楽の新しい創造性」を具現化するため、「サウンドデザイン」をキーワードとしたシンポジウムを開催しました。地域が一体となって聴覚の問題に取り組んでいるハノーバーの先進事例の発表をはじめ、医療、教育、環境など他分野における音の可能性について議論を深めました。



開催日： 2016年12月16日  
テーマ： サウンドデザインシティを目指して  
～音と人が共鳴する未来の都市像～  
参加都市： ハノーバー  
参加者数： 154人

### 5.1.4 サウンドデザインフェスティバルin浜松2017 (I、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ)



サウンドデザインシンポジウムin浜松2016で示された「サウンドデザイン」の可能性を、具体的に体感できるフェスティバルを開催しました。楽器産業の集積地である浜松市の特性を活かし、音に関する国内外の先進的な製品、アート作品、楽器の展示や、アーティストによるパフォーマンス、ワークショップを実施しました。また、創造産業の創出を目指し、イベントとして10月14、15日にサウンドハッカソン「ハママチューン」を実施しました。



開催日： 2017年12月9日～10日  
テーマ： What is SOUND DESIGN?  
出展者数： 25団体  
出展点数： 64点  
協力都市： ポローニャ、ハノーバー、神戸、名古屋  
来場者数： 5,332人

## 5.2 音楽文化発信・交流事業

### 5.2.1 浜松国際ピアノコンクール(2015、2018) (Ⅲ、Ⅳ)



若いピアニストに世界へ羽ばたくきっかけを提供することを目的に、1991年から3年ごとに開催しています。第1位入賞者には国内外で20回を超えるコンサートの機会が与えられます。これまでの入賞者には、チョ・ソンジン(2009年優勝、2015年ショパン国際ピアノコンクール優勝)など著名な演奏家や指導者となった方がいます。市民ボランティアの活動、ピアニストのホームステイやコンクールを終えたピアニストによるスクールコンサート、ホームコンサートなど、市民レベルでの様々な取り組みが実施されているのも当コンクールの特徴です。

#### 第9回実績

開催日： 2015年11月21日～12月8日

応募者数： 449人(42ヶ国1地域)

コンクール及びイベント入場者数： 153,183人

スクールコンサート実施回数(観客数)： 11回(4,164人)

ホームコンサート実施回数(観客数)： 11回(337人)

※第10回は2018年11月8日～25日に開催

### 5.2.2 世界青少年音楽祭(2014) (Ⅲ)

青少年音楽団体を国内外から浜松に招き、音楽を通じた浜松市民及び青少年との交流、国際親善を図ることを目的に音楽祭を開催しました。ファイナルコンサートでは、出演全団体約530人による合同合唱が披露されました。



開催日： 2014年8月15日～17日

海外からの出演(都市名または国名)：  
ボローニャ、香港、台湾、韓国、マレーシア

入場者数： 5,240人

出演者数： 1,428人(うち、海外から224人)

### 5.2.3 APBDA(アジア・太平洋吹奏楽指導者協会)大会(2018) (Ⅲ)

ユネスコより認定を受けるWASBE(世界吹奏楽会議)に加盟するアジア・太平洋12ヶ国・地域が設立したAPBDA(アジア・太平洋吹奏楽指導者協会)の第20回記念大会を浜松市で開催しました。アジア圏内における吹奏楽のレベル向上及び吹奏楽に携わる人々の交流を図るため、吹奏楽に関する研究発表、講演、コンサート等を行いました。



開催日： 2018年7月19日～22日

海外からの出演(国・地域名)：  
オーストラリア、中国、韓国、シンガポール、台湾、香港、マカオ

入場者数： 9,939人

出演者数： 2,457人(うち、海外から936人)

## 5.3 音楽文化都市交流事業

### 5.3.1 ポローニャとの音楽文化交流に関する覚書(2014)に基づく交流(I、IV)



ポローニャと浜松市は、音楽文化の振興や活性化を図るため、2014年4月、音楽文化交流に関する覚書に署名しました。音楽家や青少年の音楽団体の交流、音楽教育関係者による教育法についての情報交換などを行いました。また、浜松市にある静岡文化芸術大学とポローニャ大学はこれまでに10人の学生の交換留学を行いました。

### 5.3.2 ハノーバーとの音楽文化交流に関する確認書(2016)に基づく交流(I、IV)



ハノーバーと浜松市は、国際的音楽事業、高度音楽人材の育成、創造産業の振興の3分野について相互連携を行うため、2016年10月、音楽文化交流に関する確認書に署名しました。ハノーバーデジタルサウンド会議でのヤマハ研究者のスピーチ、サウンドデザインシンポジウムin浜松2016でのハノーバーの実践発表、ハノーバーの北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによるジュニアオーケストラ浜松団員への弦楽器レッスンや交流コンサートなどを実施しました。

## 5.4 その他

### 5.4.1 創造都市国際交流事業「日本へのクリエイティブな旅」(VI)



2016年10月、ユネスコ本部で、日本のUCCN加盟都市と連携し、ユネスコ創造都市の素晴らしさをPRするイベントを実施しました。浜松市は、第9回浜松国際ピアノコンクール審査委員長でパリを拠点に国際的に活躍するピアニスト海老彰子氏によるピアノ演奏や、ヤマハ、カワイ、ローランドの楽器を紹介するパネル展示を行いました。

### 5.4.2 創造都市ネットワーク日本(CCNJ)への参加(VI)

2013年1月、創造都市の取り組みを推進する日本国内の地方自治体等の連携と交流を促進するために、創造都市ネットワーク日本(CCNJ)が設立されました。浜松市は設立当初から参加しています。2018年～2019年は代表幹事都市を務め、加盟団体数約160で構成される同ネットワークのコーディネートをを行います。



## 6 今後4年間の中長期アクションプラン

### 新しい価値創造に向けて

#### ～ヒト・モノ・コト 多様なコラボレーションから生まれる相乗効果～

UCCN加盟後の4年間は、国際的な活動における5つの基本方針に基づいて事業を推進してきました。

1. 世界的音楽イベントを通じた国際交流の推進
2. 音楽を通じた異文化理解と文化的多様性の実現
3. 国際レベルの人材の育成と交流
4. サウンドデザインの聖地としての貢献
5. 新しい価値を創造するファンタジスタの輩出

今後4年間は、5つの基本方針を総合的に推進するため、音の可能性の最大化を目指すとともに創造性のシナジー効果を生み出す新たな挑戦に取り組みます。音楽の創造都市として、“響き合い”をキーワードに地域レベル・国際レベルで多様なコラボレーションを強力に展開します。

具体的には、国内外のUCCN加盟都市との協働や異分野との連携を強化するとともに、創造的な人材を輩出する推進体制や支援内容を充実し、その効果を様々な領域に波及させることで、UCCNのミッションや国連の2030アジェンダの達成に貢献していきます。

#### 6.1 ネットワークの目標を達成するための地域レベルでの取り組み

##### 6.1.1 市民の創造的活動の支援体制の強化／浜松アーツ&クリエイション

文化芸術の力を都市の発展に活かすため、浜松アーツ&クリエイションを中心に、市民が主体となった創造的な活動を一層活発化させます。みんなのはままつ創造プロジェクトで発揮された市民の創造性を総合的・戦略的に支援・推進するための仕組みを構築します。

##### 6.1.2 次代を担う音楽人材の育成拠点の創出／市民音楽ホールの整備

次代を担う音楽人材の育成と市民の音楽文化活動や学習成果等の発表の場の創出を目的に2020年度中の供用開始を目指し、市民音楽ホールを整備します。子供たちが音楽文化に親しみ、音楽の都・浜松のまちづくりを支える次世代の担い手を育てる施設としての役割を果たします。

## 6.2 ネットワークの目標を達成するための国際レベルでの取り組み

### 6.2.1 音の可能性の最大化への挑戦／サウンドデザインの探求

サウンドデザインシンポジウムin浜松2016で音の可能性について議論を深め、サウンドデザインフェスティバルin浜松2017では音の可能性を示すアートやプロダクトを多くの人に体感していただきました。

次のステップとして、浜松市の強みである音楽・サウンド産業と、UCCN音楽分野加盟都市や、デザインやメディアアートなど他分野の加盟都市との連携を強化し、医療、教育、福祉、環境など様々な領域においても、音楽や音の持つ無限の可能性を拡げます。音を活用した地域の課題解決や新たな産業の振興を目指し、サウンドデザインの聖地として国際社会へのさらなる貢献をしていきます。

### 6.2.2 はままつ響きの創造プロジェクト(2020東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム)

文化・産業・観光などの関係団体による実行委員会、楽器メーカーや専門家によるプロジェクトチームを設置し、“はままつ響きの創造プロジェクト”として新たな戦略的事業を企画し、2018年にキックオフイベント、2019年にプレイベント、2020年にメインイベントを開催します。また、2020年以降も、関係団体や専門家と連携してプロジェクトを進めていきます。

音楽が常に感動と共に人と人との響き合い(様々な背景を持つ人々の共感や一体感、コラボレーションといった心の繋がり)を生み出してきたことに着目し、以下の視点で事業を実施し、創造性のシナジー効果を創出していきます。

1. 人と人との“響き合い”による共生社会の実現
2. 産学官民連携の促進による地域一体となった取り組みの推進
3. 音楽とアートやデザイン、科学など異分野との協働による新しい価値の創造

## 6.3 提示されたアクションプランの実行にかかる推定年間予算

予算議決前のため、具体的な額を示すことはできませんが、概ね2018年度と同等の予算規模を見込んでいます。

2018年度 創造都市・文化振興費： 約2,131,000,000円

## 6.4 コミュニケーションと認識向上のための計画

- ・ 創造都市・浜松ウェブサイト、Facebook、浜松アーツ&クリエイションや浜松市文化振興財団のウェブサイト等を通じ、情報発信を行います。
- ・ 創造都市関連事業やマスメディアとの共同事業等においてUCCNの意義等を発信し、地域におけるステイクホルダーや市民の認識向上に努めます。
- ・ UCCNのウェブサイトにも積極的にニュースを掲載します。
- ・ CCNJの代表幹事都市(2018-2019)として、創造都市に関心を持つ地方自治体等に対して、UCCNの意義等を発信し、加盟申請への助言や協力などの支援を行うことで、ネットワークの発展に貢献します。



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



City  
of  
Music

**HAMAMATSU**

Designated  
UNESCO Creative City  
in 2014